

静岡がん会議

2012

医療関連分野の総合特区によるイノベーションの推進

平成25年3月9日(土)

静岡県立静岡がんセンター研究所

主催：静岡県・静岡がんセンター

開催趣旨

ファルマバレー プロジェクトは、2002年に静岡県によって開始された、県民の健康増進と医療健康産業の振興を目指す取り組みである。

2011年、プロジェクトの一部が、「ふじのくに先端医療総合特区」として、内閣府により地域活性化総合特区として指定され、プロジェクトの活動はさらに加速している。

一方、医療関連分野のイノベーションは、日本の成長戦略に於ける重要な課題の一つと位置づけられており、全国的にみても、13の総合特区が医療を対象としている。

本会議では、医療を対象とする総合特区関係者が一堂に会し、情報を共有し、交流を図ることにより、総合特区同士が日本全域で相互に連携し、より大きな成果を上げることを目的として開催される。

静岡県立静岡がんセンター総長
山口 建



プログラム

平成25年3月9日(土)
静岡がん会議2012 | 静岡がんセンター研究所 しおさいホール

テーマ：医療関連分野の総合特区によるイノベーションの推進

10:00	開会挨拶	川勝 平太 (静岡県知事)
10:10	実行委員長挨拶	山口 建 (静岡県立静岡がんセンター総長)
10:30	基調講演 I	総合特区について 辻本 崇紀 (内閣官房地域活性化統合事務局参事官補佐)
11:00	基調講演 II	経済産業省における医療機器産業政策について 覚道 崇文 (経済産業省商務情報政策局医療・福祉機器産業室長)
セッション I 地域医療の充実・強化、健康づくりに向けた取り組みについて		
11:30	講演1	柏の葉キャンパス『公民学連携による自律した都市経営』特区 飯島 勝矢 (東京大学高齢社会総合研究機構准教授)
11:45	講演2	「尾道地域医療連携推進特区」の取り組み 金光 義雅 (広島県総務局総合特区計画プロジェクトチーム担当課長)
12:00	講演3	かかわ医療福祉総合特区 塩田 広宣 (香川県健康福祉部医務国保課副主幹)
12:15	講演4	「先導的な地域医療の活性化(ライフイノベーション)総合特区」について ～総合メディカルゾーン構想による地域医療への貢献～ 東條 正芳 (徳島県病院局総務課総合メディカルゾーン推進担当室長)
12:30	講演5	健幸長寿社会を創造するスマートウエルネスシティ総合特区 福林 孝之 (株式会社つくばウエルネスリサーチ取締役・ウエルネス推進部長兼経営戦略室長)
12:45	総合討論 I	
13:15	昼食 (60分)	
セッション II 医薬品・医療機器・先端医療技術の創出に向けた取り組みについて		
14:15	講演1	つくば特区における次世代がん治療(BNCT)の開発実用化への取り組み 熊田 博明 (筑波大学医学医療系准教授)
14:30	講演2	低侵襲注射針を搭載した簡易・微量採血機器の開発と今後の展望 下田 正文 (株式会社DNAチップ研究所事業企画顧問) 花内 洋 (横浜市経済局新産業振興課総合特区推進担当課長)
14:45	講演3	関西イノベーション国際戦略総合特区の取組みについて 新性 健次 (大阪府商工労働部バイオ振興課課長補佐)
15:00	休憩 (15分)	
15:15	講演4	ふじのくに先端医療総合特区 小櫻 充久 (静岡県経済産業部商工業局新産業集積課課長)
15:30	講演5	東九州メディカルバレー構想特区の取組について 田中 保通 (宮崎県商工鶴光労働部工業支援課課長)
15:45	講演6	「みえライフイノベーション総合特区」について 高村 康 (三重県健康福祉部業務感染症対策課副参事兼副課長)
16:00	総合討論 II	
16:55	閉会挨拶	

*講演のテーマにつきましては、変更する場合があります。ご了承ください。

講師プロフィール／講演要旨

基調講演I

総合特区について

講 師

辻本 崇紀（内閣官房地域活性化統合事務局参事官補佐）



経歴・研究活動等

1997	通商産業省（現・経済産業省）入省
2010	同立地環境整備課課長補佐
2011	内閣官房地域活性化統合事務局参事官補佐（現職）

2011年にスタートした総合特区制度について、目的、趣旨、制度の内容、地域や国の取組について解説するとともに、指定されている特区の展望や期待されることについて説明する。

基調講演II

経済産業省における医療機器産業政策について

講 師

覚道 崇文（経済産業省商務情報政策局医療・福祉機器産業室長）



経歴・研究活動等

1992.3	東京大学大学院工学系研究科修了
1992.4	通商産業省入省
1997.7～1999.6	マサチューセッツ工科大学大学院 (通商産業省から経済産業省へ)
2001.1	海外駐在（ベルギー・ブリュッセル）
2001.6～2004.6	ジェトロ・ブリュッセルセンター 製造産業局製鉄企画室長
2008.7	商務情報政策局医療・福祉機器産業室長
2012.4	

医療機器産業は今後の成長が期待されるものの、現在は、6000億円の輸入超過になっており、我が国医療機器産業の競争力強化が期待される。そのためには、日本のものづくり技術を医療機器の分野に生かしていくことが重要であり、医療現場のニーズをものづくり技術で解決するような医療機器開発を促進していく。また、よりよい医療機器ができるだけスムーズに医療現場に届けられるよう、制度面での環境整備を進めるとともに、より大きな成長が期待される海外の医療機器市場を獲得していくための施策展開も図っていく。

セッションI 地域医療の充実・強化、健康づくりに向けた取り組みについて

講 演 1

柏の葉キャンパス『公民学連携による自律した都市経営』特区

講 師

飯島 勝矢（東京大学高齢社会総合研究機構准教授）



経歴・研究活動等

1990	東京慈恵会医科大学医学部卒業
1991	千葉大学医学部循環器内科入局
1997	亀田総合病院（循環器内科）
2001	君津中央病院（循環器科）
2002	東京都東部地域病院（循環器科）を経て
2005	東京大学大学院加齢医学講座医員
2006	同所属助手
2007	米国スタンフォード大学医学部循環器内科研究員
2008	東京大学加齢医学講座助手にて復職
2011	同所属講師 医局長、病棟医長、外来医長を歴任 東京大学・高齢社会総合研究機構 (IOG:Institute of Gerontology:ジェロントロジー)准教授

千葉県柏市において産官学民（公民学）・異分野連携による“健康”を源泉とした未来のまちづくりを達成し、新しい日本のライフスタイル・ブランドを確立するべく健康長寿都市計画を進めている。特に健康未来都市として「歩く（動く）・食べる・社会参加」の三要素を、安心未来都市として「住まいと在宅医療・介護」を基本に健康を創造するまちづくりを具体化し、誰もが暮らしたい安心・安全・サステイナブルな街を実現したい。

講演2

「尾道地域医療連携推進特区」の取り組み

講 師

金光 義雅（広島県総務局総合特区計画プロジェクト・チーム担当課長）



経歴・研究活動等

1984.4	広島県職員採用
1995.4	商工労働部商政課主任
1999.4	地域振興部地域振興課企画員
2006.4	福祉保健部障害者支援室主任主査
2009.4	企画振興局政策企画課事業調整監
2011.4	総務局総合特区計画PT参事
2012.4	総務局総合特区計画PT担当課長

「尾道地域医療連携推進特区」では、住み慣れた地域で安心して暮らすことができるよう、ICTを活用した医療・介護連携による在宅医療の充実に取り組んでいる。具体的には、「尾道方式」による多職種連携モデルをより発展させるため、ICTを活用した診療情報等の蓄積と共有化を図るとともに、離島など条件不利地域の在宅患者のケアを行なうため、遠隔診療や遠隔服薬指導のモデル事業を進めている。こうした取り組みの概要について紹介する。

講演3

かがわ医療福祉総合特区

講 師

塩田 広宣（香川県健康福祉部医務国保課副主幹）



経歴・研究活動等

1992.3	岡山大学卒業
1992.4	香川県庁入庁
2009.3	政策研究大学院大学修士課程修了
2009.4	政策部予算調整室主任
2012.4	健康福祉部医務国保課グループリーダー

「かがわ医療福祉総合特区」構想は、主として、医療人材の不足や高齢化の進行が著しい瀬戸内海上の島しょ部や、讃岐山脈沿いに点在する山間部の「へき地」において、医療ICTを積極的に活用した遠隔医療や遠隔服薬指導などに取り組み、地域の住民が、安心して暮らすことができる環境を実現しようとするものである。講演では、本構想の背景や今までの取り組み状況のほか、今後にむけた課題などについて紹介する。

講演4

「先導的な地域医療の活性化(ライフノベーション)総合特区」について ～総合メディカルゾーン構想による地域医療への貢献～

講 師

東條 正芳（徳島県病院局総務課総合メディカルゾーン推進担当室長）



経歴・研究活動等

1985.4	徳島県職員
2012.5	徳島県病院局総合メディカルゾーン推進担当室長

徳島県には医療関係の大きな2つの課題があり、1つ目は人口当たりの医師数や病院数は全国トップクラスであるにもかかわらず、過疎地域における医療従事者の減少と産科など診療科の減少等による地域医療の崩壊。2つ目は長期にわたる糖尿病死亡率全国ワースト1からの脱却。この課題解決に向けての取り組みのうち、県立病院と大学病院の連携による「総合メディカルゾーン構想」を中心とした「地域医療の再生」への取り組みを紹介する。

講演5

健幸長寿社会を創造するスマートウェルネスシティ総合特区

講 師

福林 孝之（株式会社つくばウエルネスリサーチ取締役・ウエルネス推進部長兼経営戦略室長）



経歴・研究活動等

1999	東京農業大学大学院修士課程 造園学専攻修了(造園学修士)
1999.4	(株)ハシフィックコンサルタント入社
2004.1	(株)つくばウエルネスリサーチ入社
2012.6	ウエルネス推進部長兼経営戦略室長(現職) e-wellnessシステム開発および自治体・企業健保の健康増進事業のコンサルティング業務を行う。

便利さを追求してきた社会と、その受け皿である街の構造が国民の健康を阻害し、さまざまな社会課題を引き起こしていることがエビデンスベースで確認されている。それゆえ、我が国はその処方箋の策定が求められるが、それを可能とする社会技術の集積はなされていないのが現状である。そこで本講演では、健幸長寿社会を創造するスマートウェルネスシティ総合特区で進めている社会実験の結果も含めて、方向性を提示する。

講師プロフィール／講演要旨

セッションⅡ 医療品・医療機器・先端医療技術の創出に向けた取り組みについて

講演1

つくば特区における次世代がん治療(BNCT)の開発実用化への取り組み

講 師

熊田 博明 (筑波大学医学医療系准教授)



経歴・研究活動等

1996.4	日本原子力研究所入所研究員 BNCTに関する研究開発に従事
2005.3	筑波大学大学院博士課程修了 学位(博士)取得
2006.7	日本原子力研究開発機構研究副主幹
2009.5	筑波大学医学医療系准教授 陽子線治療およびBNCTに関する医学物理分野の研究開発に従事

つくば国際戦略総合特区の先導的プロジェクトの1つとして、BNCTの開発実用化を目指したプロジェクトを進めている。BNCTは中性子とDDS技術を組み合わせて、がん細胞だけを選択的に破壊する次世代の放射線治療である。これまで筑波大学を中心に種々の競争的資金を獲得して病院にも併設可能な小型加速器ベースの治療装置を開発し、また、茨城県による治療研究拠点の整備を実施してきた。これまでの取り組みと今後の事業計画等を紹介する。

講演2

低侵襲注射針を搭載した簡易・微量採血機器の開発と今後の展望

講 師

下田 正文 (株式会社DNAチップ研究所事業企画顧問)

講 師

花内 洋 (横浜市経済局新産業振興課総合特区推進担当課長)



下田 正文 経歴・研究活動等

1967.3	上智大学理工学部卒業
1967.4	吉沢ビジネス・マシンズ株式会社入社
1970.9	日立汎用コンピューターHITAC8000シリーズOS開発 (株)日立ソフト入社(ソフト研究開発に従事)
1984.4	(株)日立アメリカ出向(サンフランシスコ)
1987.4	(株)日立ソフト、研究開発部長
1998.1	ライフサイエンス推進本部本部長
2001.4	(株)DNAチップ研究所常務
2008.4	(株)DNAチップ研究所顧問

京浜臨海部ライификаイノベーション国際戦略総合特区では、個別化・予防医療時代に対応したグローバル企業による革新的医薬品・医療機器の開発・製造と健康関連産業の創出を目指して、様々なプロジェクトを推進している。今回は低侵襲注射針とそれを搭載した簡易・微量採血機器の開発とそれを利用したがん等の先制医療用診断マーク、創薬ターゲットなどの探索のための臨床研究プラットフォーム(健常人検体データベース等)の構築計画と先制医療の試行実験について報告する。



花内 洋 経歴・研究活動等

1983.4	横浜市職員
2012.2	横浜市経済局成長戦略推進部 国際戦略総合特区推進担当課長

講演3

関西イノベーション国際戦略総合特区の取組みについて

講 師

新性 健次 (大阪府商工労働部バイオ振興課課長補佐)



経歴・研究活動等

1987.3	関西大学法医学部卒業
1987.4	大阪府庁入庁
1999.7	公正取引委員会派遣
2010.4	大阪府商工労働部バイオ振興課課長補佐(現職)

関西の3府県(京都府、大阪府、兵庫県)及び3政令指定都市(京都府、大阪市、神戸市)は、平成23年12月に「関西イノベーション国際戦略総合特区」の指定を受けた。大学や研究機関、企業や経済団体、行政が一丸となり、関西経済、産業の再生のため府県を越えて取り組んでいる。関西の強みであるライフサイエンス分野や新エネルギー分野を対象に、研究開発から実用化、産業化のスピードアップを図り、世界に向けて新しいイノベーションを生み出していくための取組みについて説明する。

講演 4

ふじのくに先端医療総合特区

講 師

小櫻 充久（静岡県経済産業部商工業局新産業集積課課長）

経歴・研究活動等

1980	千葉大学人文学部卒業 静岡県入庁
1996	がんセンター建設準備スタッフ
2003	ファルマバレーセンター企画部長
2007	建設部都市計画室専門監
2010	経済産業部新産業集積課課長（現職）

静岡県は、県東部地域を中心に、地域の産学官金が協働して「ファルマバレープロジェクト」を推進している。医薬品・医療機器製造業のほかこれららの研究拠点が数多く集まるこの地域で、県立静岡がんセンターの開院を契機に「ファルマバレー構想」が策定されてから10年。医看工連携による研究開発、大企業との連携による製品開発、地域企業の医療健康産業への参入が進み、医薬品・医療機器の生産額は平成22年から2年連続日本一となっている。また、平成23年12月には、国から「ふじのくに先端医療総合特区」が認定され、がん医療の発展と地域企業の活性化を目的とした取組が始まっている。

講演 5

東九州メディカルバレー構想特区の取組について

講 師

田中 保通（宮崎県商工観光労働部工業支援課課長）

経歴・研究活動等

1982	東京大学法学院卒業
1982.4	宮崎県入庁
2006	米国国務省IVLプログラム参加
2010.4	県民政策部副参事兼総合政策課課長補佐
2012.4	商工観光労働部工業支援課課長

宮崎県と大分県に広がる東九州地域は、人工腎臓、アフェレシス製品など、血液・血管に関する医療機器産業の一大集積地となっている。両県では、この集積を活かし、医療機器産業の一層の集積と地域活性化、医療分野でのアジアへの貢献を目指し、東九州メディカルバレー構想に取り組んでおり、地域活性化総合特区の第1次指定を受けている。構想の「研究開発」「医療機器産業」「人材育成」「血液・血管医療」の4つの拠点づくりについて紹介する。

講演 6

「みえライフイノベーション総合特区」について

講 師

高村 康（三重県健康福祉部薬務感染症対策課 副参事兼副課長）

経歴・研究活動等

1981.3	名城大学大学院薬学専攻科(修士課程)修了
1983.4	製薬企業入社
	三重県庁入庁
2007.4	本庁、保健所で薬事、食品衛生、メディカルバレー業務等に従事
2009.4	薬務食品室副室長（メディカルバレー担当）
	薬務食品室副室長（元薬務感染症対策課）
	副参事兼副課長（メディカルバレー担当）（現職）

平成24年7月25日に国から指定を受けた地域活性化総合特区「みえライフイノベーション総合特区」では、三重県が平成14年度から取り組んでいる医療・健康・福祉産業の創出と集積を図る「みえメディカルバレー構想」の推進により構築された産学官民連携体制を基盤に、三重県内に整備されている医療系ネットワークを活用し、患者の医療情報（治療、投薬、検査等）を統合した「統合型医療情報データベース」（30万人規模）を構築するとともに、研究開発支援拠点「みえライフイノベーション推進センター（MieLIP）」を県内7箇所に設置する。

本データベースやMieLIPの活用、規制緩和策などにより、国内外の企業等による画期的な医薬品、医療機器等の創出、企業や研究機関の県内への立地促進、雇用拡大などを図り、県内企業・大学等の活性化や県内経済を活性化していく。

本日は、本特区の進捗状況と将来展望について紹介する。